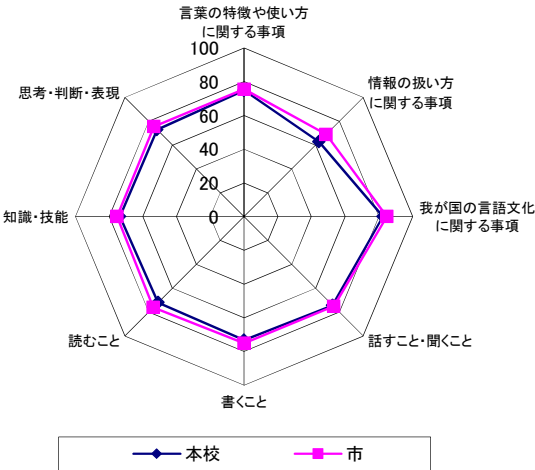


宇都宮市立横川中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.0	75.6	66.5
	情報の扱い方に関する事項	62.9	69.0	62.0
	我が国の言語文化に関する事項	82.4	84.7	78.2
	話すこと・聞くこと	74.4	75.3	69.4
	書くこと	73.2	75.2	65.1
	読むこと	72.0	76.2	68.8
観点別	知識・技能	73.6	75.3	66.7
	思考・判断・表現	72.9	75.6	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

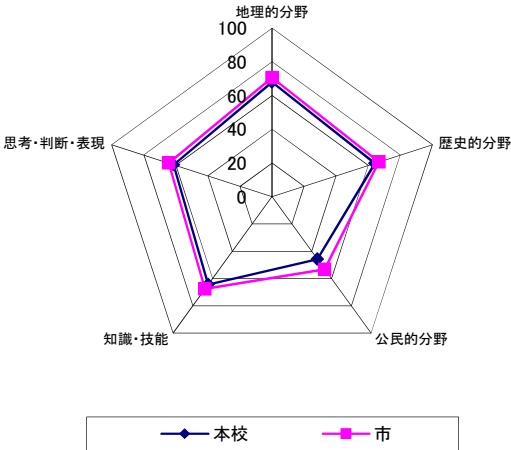
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○助動詞や敬語などの文法問題の正答率が宇都宮市平均より高かった。また、漢字を書く問題についても、よくできていた。 ●漢字を読む問題の正答率が市の平均を下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・文法問題については、知識定着のために演習問題を繰り返し行う。また、漢字の読み書きについては、漢字テストなどを行うことで定着を図る。 ・漢字の読み取りの数値が低かったので、普段の読書などでも身につけられるよう促す。
情報の扱い方に関する事項	●説明的な文章で、情報と情報との関係について理解し、論理の展開の仕方を考える問題の正答率が低かった。	・文と文、段落と段落のつながりについて捉えたりする学習を充実させ、情報同士の関係について捉える力を身に付けさせていく。説明的文章で指示語や接続語などを確認させ、情報を整理できるようにさせていく。
我が国の言語文化に関する事項	●古典文学での読み取り問題の正答率が低かった。	・古典文学については、様々な文章を読み、内容がとらえられるよう知識定着を図る。また、動作主や敬語表現などをヒントに文章が捉えらるよう指導していく。
話すこと・聞くこと	○話の展開を予測して回答する問題の回答率が宇都宮市の平均を上回った。 ●聞き取った内容から、自分の考えを表現する問題の回答率が低かった。	・自分の考えを明確にして話すことや、論理の展開を考えて工夫して話すことに課題がある。短作文や短いスピーチ等をグループ内で発表する活動を取り入れ、自分の意見を整理して表現する活動を増やしていく。
書くこと	○今後自分は、新しい科学技術とどのように向き合って生活していきたいと思うかを書く問題の正答率が宇都宮市の平均を上回った。 ●記述されている意見に対しての自分の考えと、その理由を書く問題の正答率が低かった。	・与えられた課題や条件から自分の意見を、根拠を明確に書くことはできたが、文章を読み、それに対する自分の意見を書くことに課題が見られた。文章を読み取る力も必要であるので、要旨を捉えたうえで、自分の意見が表現できるような意見文を練習させていく。
読むこと	●説明的な文章や文学的文章ともに、内容を読み取る問題の正答率が低かった。	・説明的な文章の読み取りに関しては、段落構成を理解したうえで、要旨をまとめる授業を行っていく。文学的文章の読み取りに関しては、細かな描写に注目しながら、登場人物の言動の意味を考えたり、筆者の場面設定や人物設定の意図に迫ったりするような授業を展開していく。

宇都宮市立横川中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	67.9	70.5	62.1
	歴史的分野	64.1	66.6	57.8
	公民的分野	45.9	53.3	45.2
観点別	知識・技能	64.4	67.6	59.2
	思考・判断・表現	61.4	64.5	55.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

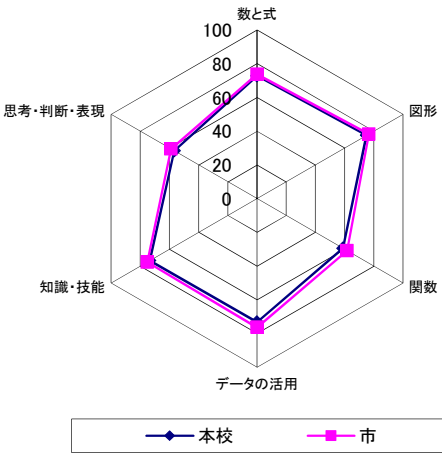
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	●「世界の姿」「日本の自然災害」「九州地方とアジアの結びつき」の問題以外は、正答率が市平均を下回っていた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎的、基本的事項の理解度を向上をさせるために、新たな単元でも関連する項目について既習内容を取り上げ、復習を図るようにしていきたい。図や映像資料、ICTを活用し、関心を高めていきたい。
歴史的分野	●「旧石器時代」「開国の影響」の問題以外、正答率が概ね市平均を下回っている。 ○「開国の影響」の問題のみ正答率が市平均を大きく上回っていた。	・基礎、基本となる知識が定着できるよう、できる限り小テストを実施する。また資料や図の読み取りを丁寧に行うことと、人に説明する学習活動を取り入れ、資料活用技能の向上を目指していく。
公民的分野	●市平均を下回っており、理解が不十分であると考えられる。特に記述の問題の正答率が低かった。	・授業や小單元ごとにできる限り復習活動を取り入れ、基本的内容の定着を図るようにする。公民は日常の生活に即した内容も多いため、身近な例を挙げるなど生徒の理解や関心が高まるように工夫していきたい。また資料や図を読み取り、説明する学習活動を取り入れ、思考・判断・表現力の向上を図っていく。

宇都宮市立横川中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	72.9	73.8	71.4
	図形	75.0	76.7	67.9
	関数	58.9	61.6	52.2
	データの活用	73.2	76.4	65.4
観点別	知識・技能	73.5	75.2	69.9
	思考・判断・表現	56.8	58.9	48.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

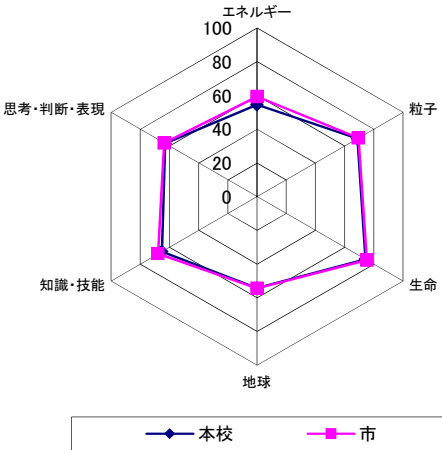
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○式の計算、式の展開、平方根では市平均を上回っている。特に式の展開は大きく上回っており、理解している生徒が多いことがわかる。 ●連立方程式、2次方程式では市の平均を下回っており、苦手としてしている生徒がいることがわかる。2次方程式の解をもとめることを苦手としている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・引き続きワーク、プリント等を使い、授業中や家庭学習において、基本的な計算問題を数多く解くように促す。 ・2次方程式の解き方のパターンを理解させ、授業中に繰り返し確認を行い、文章問題でも対応できるようにする。
図形	○図形の性質については市平均を上回っており、図形の角の大きさの求め方を理解している生徒が多いことがわかる。 ●平面図形、空間図形においては市平均よりやや下回っている。作図については市平均より5ポイント以上下回っており、苦手としている生徒が多いことがわかる。	・複雑な図形の問題を扱うときには、どこの長さや角度がわかればよいのか、そのためにはどこの図形に着目すればよいのかを考えさせ、論理的な思考を身につけさせるよう徹底する。 ・作図の指導では、作図の仕方だけでなく、その作図にどんな性質があるのかも含めて理解させる。
関数	○反比例については市平均正答率を上回っている。 ●比例、1次関数、 x の2乗に比例する関数では、市平均正答率を下回っている。特に座標平面上にある三角形の面積を求める問題では、市平均より10ポイント以上下回っており、苦手としている生徒が多いことがわかる。	・関数関係を理解するには、式・グラフ・表を関連させて考えさせることが必要である。授業で繰り返し取り上げて指導することで、定着させたい。 ・関数の中でも x の2乗に比例する関数についての問題が苦手である。授業で丁寧に課題を扱い指導する。
データの活用	●すべての問題で市平均を下回っている。特に確率については、市平均より5ポイント以上下回っており、苦手としている生徒が多いことがわかる。	・データの活用については、度数分布表から、相対度数や平均値など関連する用語をしっかりと理解し、繰り返し授業で取り上げることで、技能を定着させる。

宇都宮市立横川中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	54.6	59.3	62.1
	粒子	68.8	69.5	66.8
	生命	74.3	75.2	70.9
	地球	54.3	54.4	52.0
観点別	知識・技能	65.2	67.7	67.2
	思考・判断・表現	62.9	63.7	60.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

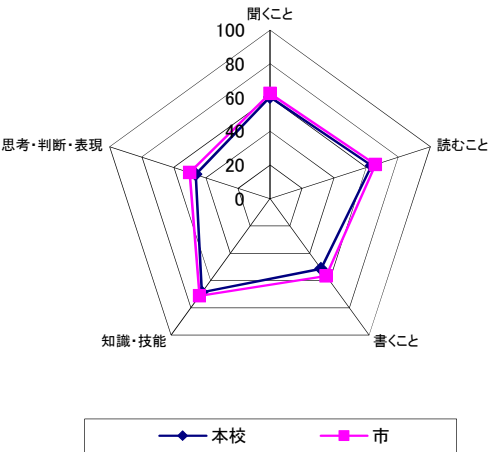
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○エネルギーの分野の中で、鏡で反射した光の道すじを問う問題で市の平均点と同程度であった。 ●多くの問題で市の平均点を下回った。特に、磁力線についての問題では12.5ポイント、テープの長さから、そのテープが記録されたときの台車の平均の速さを求める問題では、市の平均を6.7ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・電流と磁界の単元での正答率が低かったため、実験を通して作図をしたり、図示したりしてイメージをしやすくように指導していく。 ・実験において結果をもとに計算する場合は、班別活動や机間指導を充実させて個々のつまずきに対応していく。
粒子	○化学反応式の記述のしかたについての問題では、市の平均点を3.2ポイント上回った。 ●市の平均点と比べて、電離に関する問題では4.8ポイント、密度の求め方を理解し、物質を同定する問題では2.7ポイント下回った。	・電離のようなイオンに関する内容は、モデルを生徒に考えさせたり、書かせたりすることで、理解につなげていく。 ・計算して解く問題については、基礎的な計算方法から確認し、問題演習を授業に取り入れていく。
生命	○有性生殖の例を指摘できるかを問う問題では、市の平均点を4.5ポイント上回った。 ●減数分裂に関する問題では市の平均点を6.6ポイント下回った。	・身近な例については、説明だけでなく、生物の映像や写真を示すなどして特徴やからだのつくりを理解させていく。 ・知識はあるが活用できる生徒が少ない。観察でのグループ活動や話し合い活動を積極的に取り入れ、対話的な授業を展開していく。
地球	○地球の分野では市の平均点と同程度であり、特に火山に関する正答率が高く、深成岩のでき方を説明する問題では、市の正答率を4.1ポイント上回っていた。 ●気象の観測における、大気圧の大きさを求める式を指摘するという問題では市の正答率を4.5ポイント下回った。	・地球では実際に見たことがある現象や地形などはよく理解できている。一方で、普段見ることができないものについてはイメージができていない生徒も多い。ICTを積極的に活用して、調べ学習や実物の写真をできるだけ示していく。

宇都宮市立横川中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	60.3	62.4	59.8
	読むこと	63.4	65.7	58.5
	書くこと	51.4	56.8	43.5
観点別	知識・技能	68.7	71.2	65.3
	思考・判断・表現	46.4	50.1	40.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○リスニング問題のうち、日常的な話題に関する問題は市の正答率の平均を上回っていた。 ●リスニング問題のうち、英文の内容を理解や対話文の応答の問題の中で、正答率が低いものもあった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・新出語句の発音と意味を正しく定着させる。 ・さまざまな場面で使われる表現の定着を図る。 ・ペアや、グループでの活動等の内容を充実させ、さまざまな状況に応じて聞き取ったり、話したりする力をさらに向上させる。
読むこと	○さまざまな英文を読み、資料も参考に、解答を選択する問題において、市の正答率の平均を上回っている問題もあった。 ●長文の読み取り(メールの内容)問題では、内容を理解して答える問題の正答率が低かった。	・TFテストやQ&A形式などを多くこなし、内容理解の力を養う。 ・興味・関心のある英文を読んで意欲を高める。 ・長文の概要を捉えるために、粘り強く英文を読む姿勢を育てる。
書くこと	○書くことの問題では、単語の並べ替えによる英作文が市の正答率に近かった。 ●対話の流れに合った英文を書く問題が、特に市の正答率の平均より低かった。	・対話活動の中で、自分の気持ちや考えなどについて表現させる活動を多く取り入れていく。 ・間違いを恐れず、まず、何かしら英語で表現するように日頃から心がけさせる。

宇都宮市立横川中学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「めあて」「振り返り」に基づいた自主学習の実施	自主学習に取り組む際に「めあて」「振り返り」を記入させることで、何が分かり、何が分かっていないのか自分自身で確認しながら学習に取り組ませる。	「授業で習ったことをその日のうちに復習している」という設問に対する肯定的回答は、学校全体の平均が34.6%で、市の肯定的回答の割合を1.7ポイント下回っている。授業での「振り返り」をもとに、その日の学習を振り返る習慣を身に付けさせていきたい。
保護者と連携した学力テスト前の勉強計画表の作成と振り返り活動の実施	学力テスト前の学習計画表に保護者と担任の確認欄を設けることで、生徒・保護者・担任の三者で学習計画の確認を行う。また、振り返りでは、「実際の一日」と「理想の一日」のスケジュールを記入することで、学習への取り組みを可視化し、次のテストにつなげさせる。	「テストで間違えた問題は、もう一度復習している」という設問に対する肯定的回答は、学校全体の平均が73.3%で、市の肯定的回答の割合を3.2ポイント上回っている。学習計画、振り返り表にもとづいてテストの振り返りを行っている生徒が多いことが分かる。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・授業での振り返りを生かした更なる家庭学習の充実
 毎時間もしくは単元ごとに各教科で、自分の学びを自覚できる振り返りを行うことにより、生徒自身に自分が何が分かり、何が分かっていないかを確認させる。それを踏まえて、不十分な学びを補うための自主学習、あるいは理解できた内容をさらに深めるための自主学習を家庭学習として取り組めるように指導していく。その際に家庭学習においても「振り返り」を欠かさず行うことで、自分の学習状況に対してメタ認知させることで、より計画的で各自の実情を踏まえた学習を行わせていきたい。